



➤ 「どこでもドアのかぎ」第11号、完成！

「どこでもドアのかぎ」第11号に原稿をご執筆くださった皆様、どうもありがとうございました。3月14日（水）、生協教職員委員会から9名、学生3名の計12名が集まり、手分けして裁断・製本作業を行った結果、1時間ほどで、650部の冊子が完成しました。先生方の棚に一部ずつ入れさせていただきますので、目を通していただければ幸いです。なお、今回は、編集者の不手際で、校正をお願いする折がありませんでした。執筆者の皆様には、深くお詫びいたします。

冊子は、卒業式の日の配布品のひとつとして、記念品や諸書類と一緒に卒業生全員に渡されました。新一年生・新二年生に対しては、部数に限りがありますので、一律に配ることはせず、希望者に差し上げるかたちになりますが、県短生協のホームページからも閲覧できるよう、近日中にアップロードする予定です。

➤ 教職員委員会 新委員長公募！

➤ 教職員委員会を「サポーターの会」に！

製本作業に引き続き、教職員委員会が開催されました。田中委員長から、2年間を一区切りとして委員長を退きたいというお話があり、話し合った結果、この間のお骨折りを慰労しつつ、ご意志を尊重することになりました。あわせて、新委員長の選任についても話し合い、広く人材を求めるために、このNEWS紙上で公募させていただくことになりました。

委員長の資格は教職員組合員であることのみです。委員長の任期も特に定めていませんので、ご都合に合わせていただくことができます。そもそも、規程や定まった任務を持つ会ではありませんので、会への参加も、活動するかしないかも自由です。委員長の公募に興味のある方は、生協店舗にお申し出いただくか、次回の教職員委員会にお越しください。次回委員会につきましては、開催日時が決まり次第、生協メーリングリスト等でお知らせいたします。

教職員委員会で恒例となっている行事は、4月に催される新人歓迎の夜桜鑑賞会と、年度末の「どこでもドアのかぎ」の制作・発行です。このほか、お月見の会、枝豆とスイカを楽しむ会、手打ちうどんの会などの企画、学友祭への参加、

他大学との交流行事への参加など、多彩な活動が行われたこともあります。県短生協の設立以来、時にはアクティブに、時にはつつましく(?)活動を続けてきたといえますが、10周年を迎えた現在、曲がり角に来ているようです。「委員会」という名称が堅苦しいのではないかと、「サポーターの会」として再出発を図ってはどうか、という意見が多数を占めています。新委員長のお考え次第ですが、大胆な組織改革のご提案も歓迎です。ご応募をお待ちしています。

➤ 学生理事選出にバックアップを！

理事会は、ご存知の通り、生協のかなめです。教職員理事の皆様には、ご多忙の中、万障繰り合わせて、多数ご出席いただいています。暖かい、そして時には厳しいご意見が活発に飛び交い、たいへん有意義に運営されています。ところが、今年度の理事会においては、学生理事の人数が少ない上に、出席状況が悪い、という状態が続きました。

理事会・監事会の中に置かれた「役員選考委員会」（新年度の生協役員の選出について話し合っています）でも、この問題が取り上げられ、県短生協の根幹を揺るがしかねない事態であるという認識で一致し、少なくとも19年度には、学生理事の選任について、何らかのサポートを行うべきである、という結論になりました。

学生理事は、各学科専攻の1年生から1名ずつ、計6名を選ぶ必要があります。（2年生から選出しますと、生協年度と学年暦とが一致しないために、定款上重要な問題を引き起こす恐れがあります。）4月には、新入生へのオリエンテーションの一環として、各学科専攻の教員理事が中心となって、生協のしくみと理事会の役割について学ぶ場を設けた上で、理事候補となる学生を選出していただきますようお願いいたします。

オリエンテーションのための資料は、現在理事会で作成中です。この機会に、教職員のみならず、生協のしくみや、本学でどのような役割を果たしているか、大学の姿が変わってゆくにつれて、今後どのように変わっていく必要があるのか、などを一緒に考えていただければ幸いです。